

四国遍路文化資産情報の統合管理に関する基礎的検討

岩河朱音

香川大学 創造工学部 / 香川大学 情報化推進統合拠点DX推進研究センター

1. はじめに

- ・ 現在、四国遍路世界遺産登録推進協議会は、世界遺産登録に向けた取り組みを進めている
- ・ 世界遺産登録を受けるためには「生きている伝統を表す資産として高い評価を受けている」ことが求められている
- ・ この要件に対し、文化庁は、より具体的な課題として「**資産の保護措置の充実**」「**顕著な普遍的価値の証明**」「**地域コミュニティの積極的な参画**」の3点を提示している
- ・ 文化資産だけでなく、それを取り巻く文化資源やインフラなどの関連資源の情報を統合管理することで、文化資産の価値をより正確に評価できるだけでなく、保全活動の計画立案や地域参画の促進にもつながる



図 文化資産とそれを取り巻く関連資源



図 普遍的価値の根拠になり得る碑文 (丁石・道標)

2. システム概要

(1) 霊場や遍路道といった文化資産情報と、周辺の文化資源・インフラ情報を関連づけて管理できるようにデータ構造を設計

文化資産の基本情報に加え、史跡指定状況や位置情報を記録し、関連資源についても位置や状態を登録できるようにすることで、価値証明や保全計画に活用できるデータ基盤を整えている。

(2) 本システムは、機能ごとに役割を分担した三つのサブシステムで構成している。

- ・ 文化資産情報管理システム : 文化資産の基本情報を管理する
- ・ 関連資源情報管理システム : 文化資産を取り巻く関連資源を扱う
- ・ 統合情報分析・可視化システム : 地図インタフェース等を用いて統合情報を可視化する

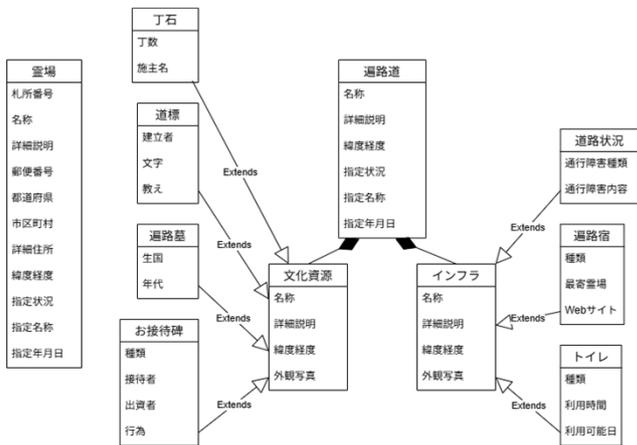


図 ER図



図 文化資産情報管理システム・関連資源情報管理システムのアプリ画面

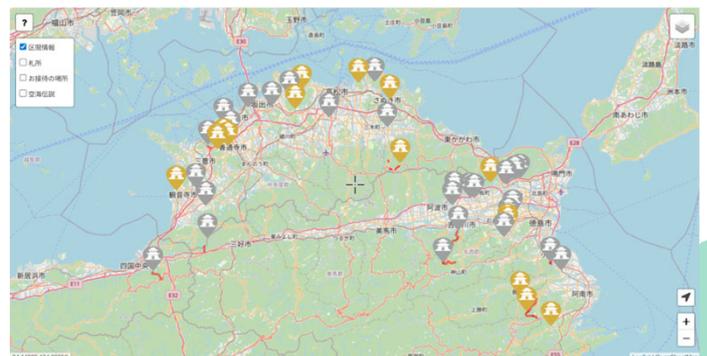


図 地図表示画面

3. 今後の展望

- ・ 実証実験に行き、評価をする予定である
- ・ 多主体間での情報共有を可能にする権限管理・承認フローの整備
- ・ イベントや日常利用を通じた継続的なデータ収集の仕組みづくり
- ・ 関連資源の地図表示をし、文化資産との関連付けによる分析を可能にする